

## <学生版> 求職者の動向・意識調査 2023

### Vol.3 「学生のアルバイト探しの今が分かる」

－4割強の学生が2週間未満でアルバイト探しを終了  
スピード感のある採用活動が求められる－



株式会社リクルートの調査研究機関「ジョブズリサーチセンター」では、求職者の動向や意識を調査するために、隔年で「求職者の動向・意識調査」を実施しています。本調査は、その「求職者の動向・意識調査」の学生版として、高校生・大学生等に、在学中のアルバイトに関する動向や意識についてアンケートを行いました。今回のレポートでは、学生のアルバイト探しの情報源や応募方法、今後アルバイトで希望するもの、アルバイトと卒業後の進路の関係などを見ていきます。

#### 【調査のポイント】

##### ① アルバイトの期間と情報源 (P4～6)

最近1年以内（2022年1月～12月）のアルバイト探しにかかった期間では、「1週間未満」が22.5%、「1週間～2週間未満」が21.9%となり、**4割強の学生が2週間未満でアルバイト探しを終えている**ことが分かりました。アルバイト探しを中断した可能性も考えられますが、学生アルバイトの採用にはスピード感が重要だと言えます。

アルバイト探しの情報源では、特に求人情報サイト（スマホ・携帯）や求人情報アプリが回答を集め、スマートフォンでのアルバイト探しがより一般的になっていることが分かります。一方、情報の量・質が異なる、友人・知人・家族の紹介にも一定のニーズが見受けられました。

##### ② 応募方法と選考辞退 (P7～8)

求人情報サイト・アプリの普及により、応募する心理的ハードルが下がった一方、応募後の辞退が増加したという声も一部で聞かれます。アルバイトの求人応募後、「**辞退したことがある**」と答えた学生は**30.8%**。辞退をしたタイミングは、「面接日程の調整後」35.8%、「応募後すぐ（面接日程の調整前）」34.2%で、面接実施前の辞退が多いようです。

**辞退をした理由については、「すでに別の仕事が決まった」が35.6%で最多**でした。併願先がある可能性も踏まえて、スピード感をもって選考を進めることが辞退防止に効果的だと考えられます。また、2番目に「希望する仕事内容ではないと感じた」18.7%、続いて「希望する条件ではないと感じた」16.9%が多くの回答を集めており、求人票と実際の条件の不一致などが辞退発生の一因になっていることが考えられます。

##### ③ 希望するアルバイトの条件 (P10～12)

希望するアルバイトの働き方では、「1つの定期的なアルバイトで働く」が53.7%で最多の一方、**2つ以上の定期的なアルバイトの掛け持ちや、定期的なアルバイトと単発アルバイトの組み合わせで働きたいという学生もそれぞれ1割強**いました。希望するアルバイトの仕事内容では、コンビニ・スーパー店員が29.2%で最多で、高校生に限ると、約4割がコンビニ・スーパー店員を希望していることが分かります。

また、アルバイト探しの絶対条件で、働き方やアルバイトをする場所を、学生が特に重視していることが分かりましたが、希望するアルバイトの職場について、以下のような声が聞かれています。

「学業や自分の都合にあわせて働けるシフト制であること」（大学院生/塾講師、家庭教師、採点）

「柔軟にシフトを調整してくれるところ」（高校1年生）

「自宅から徒歩圏内にある職場」（大学4年生/コンビニ・スーパー店員）

#### 参考調査

■ <学生版> 求職者の動向・意識調査 2018

<https://jbrc.recruit.co.jp/data/pdf/pdf201808081117.pdf>

■ 求職者の動向・意識調査 2021

[https://jbrc.recruit.co.jp/data/pdf/kyushokusha\\_211222.pdf](https://jbrc.recruit.co.jp/data/pdf/kyushokusha_211222.pdf)

## 目次

・ 調査のポイント	1
・ 目次	2
Part1 回答者プロフィール	3
年代、性別、学校種別・学年、居住地、暮らしの形態	
Part2 アルバイト探しの状況	4～6
・ 最近1年以内のアルバイト探しの経験*	
・ アルバイト探しの期間	
・ 利用した情報源 / 応募につながった情報源 / 採用（内定）につながった情報源 / 今後（も）利用したい情報源*	
Part3 応募方法と選考辞退	7～9
・ 応募の仕方	
・ 応募後の辞退有無と、応募先への辞退連絡	
・ 辞退のタイミング	
・ 辞退した理由	
・ 面接への参加意欲アップにつながる企業対応	
・ 応募先との連絡方法の希望	
Part4 今後アルバイトで希望すること	10～13
・ アルバイト探しの絶対条件*	
・ 希望する働き方	
・ 単発アルバイトのイメージ	
・ 今後働いてみたいアルバイトの仕事内容	
・ 希望する最低限の時給	
・ 希望する給与の受け取り方法	
Part5 アルバイトと卒業後の進路	14～15
・ 卒業後の進路を考えるために、アルバイトは役に立つと思うか	
・ アルバイトで身についたこと、身につけたいこと	
・ 働くうえで重視すること	
・ 現在のアルバイト先から、正社員就職の誘いを受けた場合の回答	

\*Vol1.「学生アルバイトの変化が分かる、2018・2023年調査比較」で公表済みの調査結果と同じものを掲載

## 調査概要

	<学生版> 求職者の動向・意識調査 2023
調査目的	・ 労働市場における学生アルバイトの就業実態および意識を明らかにする ・ 学生のアルバイトに関する求職実態および意識を明らかにする
調査手法	インターネット調査（インテージ社モニター利用）
対象者条件	・ 全国15～29歳の男女 ・ 現在の職業が大学院生、大学生、短大生、予備校生、専門学校・各種学校生、高校生のいずれかの人 ※高校生以外を「大学生等」として集計した。
調査期間	2023年1月6日（金）～1月13日（金）
有効回答数	3,000人

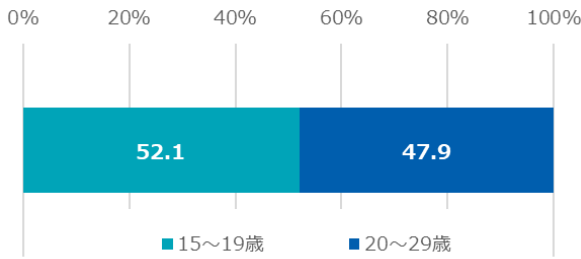
※レポート内のグラフと数表は、集計結果の小数点第2位を四捨五入して表示している。

お問い合わせ先

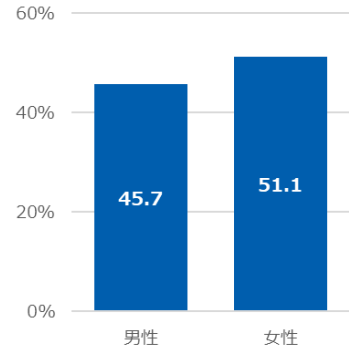
<https://jbrc.recruit.co.jp/jbrc/about.html>

# Part1 回答者プロフィール

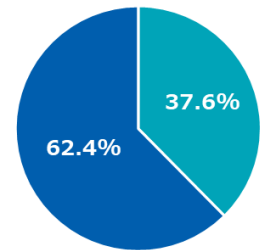
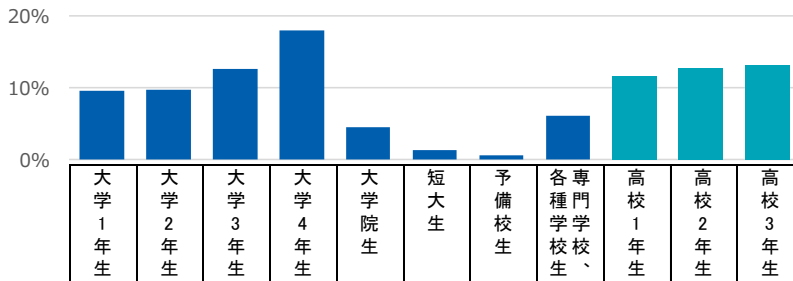
## ● 年代



## ● 性別



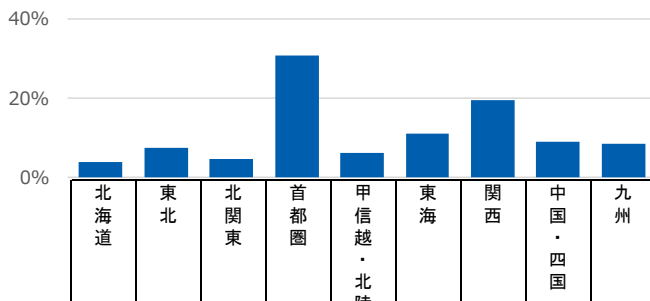
## ● 学校種別・学年



n=	3,000	9.6	9.7	12.6	18.0	4.5	1.3	0.6	6.2	11.6	12.8	13.2
大学生等	1,872	15.3	15.6	20.2	28.8	7.2	2.1	0.9	9.9	0.0	0.0	0.0
高校生	1,128	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	34.1	35.1

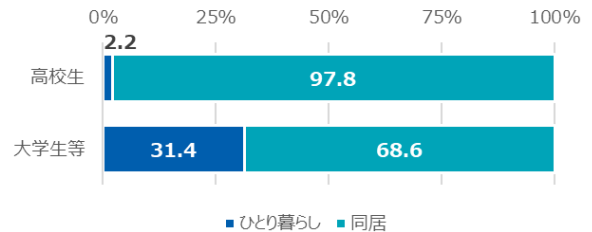
※「大学生等」には、大学生、大学院生、短大生、予備校生、専門学校、各種学校生が含まれる。

## ● 居住地



n=	3,000	3.7	7.3	4.5	30.7	6.1	10.9	19.4	8.9	8.5
----	-------	-----	-----	-----	------	-----	------	------	-----	-----

## ● 暮らしの形態

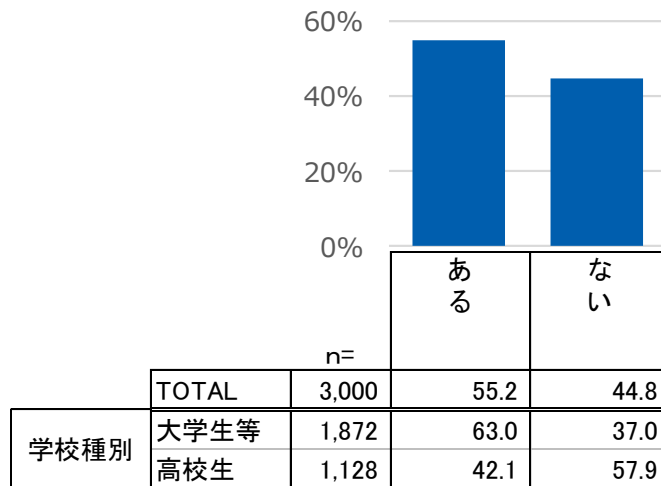


## Part2 アルバイト探しの状況

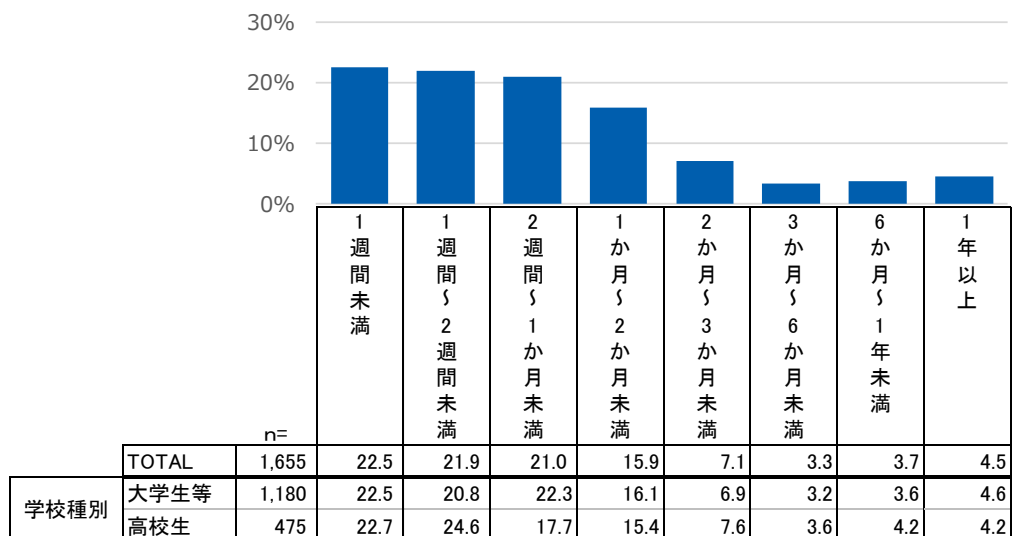
最近1年以内（2022年1月～12月）のアルバイト探しの経験について、全体の55.2%が「ある」と回答しました。大学生等に限ると、6割強がアルバイトを探したことが分かります。

アルバイト探しの期間では、「1週間未満」が最も多く22.5%でした。アルバイト探しを中断した可能性も考えられますが、4割以上が2週間未満でアルバイト探しを終えていることから、学生のアルバイト採用に成功するには、スピード感のある選考は重要だと言えます。

### ● 2-1 最近1年以内のアルバイト探しの経験 （単一回答）【対象者：全員】



### ● 2-2 アルバイト探しの期間 （単一回答）【対象者：アルバイト探しをした人】

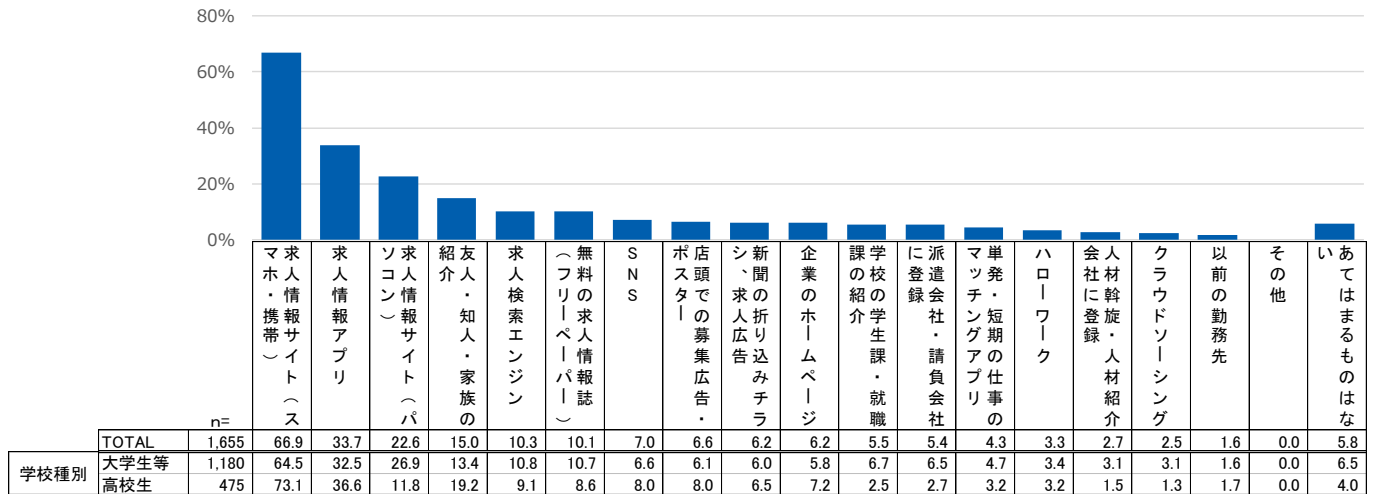


## Part2 アルバイト探しの状況

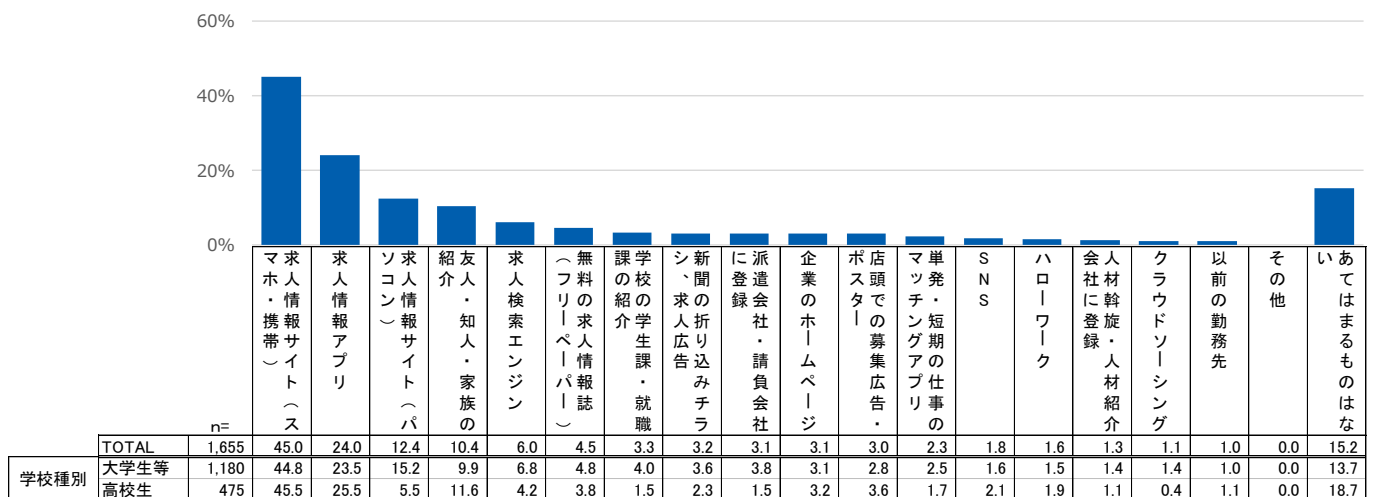
アルバイト探しで利用した情報源について、「求人情報サイト（スマホ・携帯）」が66.9%で最も多く、「求人情報アプリ」33.7%が続き、スマートフォンでのアルバイト探しがより一般的になっていると言えます。一方で、「求人情報サイト（パソコン）」を利用した大学生等は26.9%いましたが、高校生は11.8%に留まっています。

また、応募につながった情報源も全体の傾向は変わりませんが、「SNS」を利用した学生は7.0%いたのに対し、応募につながった学生は1.8%で、今時点では情報収集のために利用されるケースが多そうです。

### ● 2-3 利用した情報源（複数回答）【対象者：アルバイト探しをした人】



### ● 2-4 応募につながった情報源（複数回答）【対象者：アルバイト探しをした人】



## Part2 アルバイト探しの状況

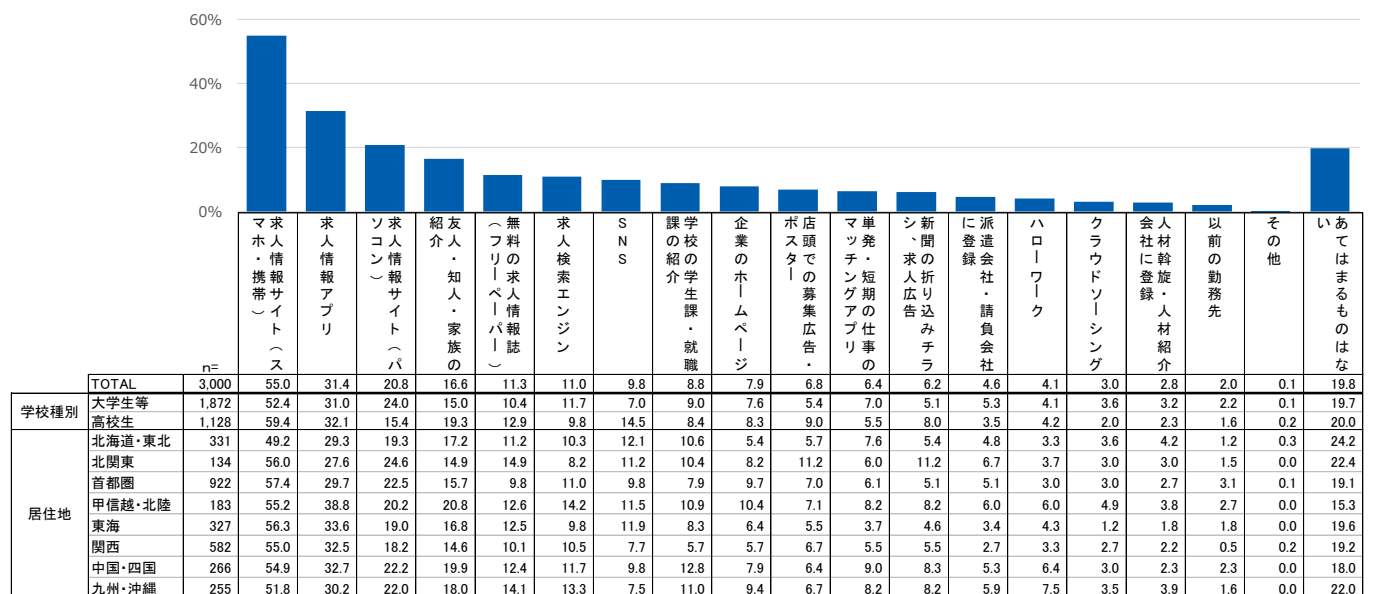
採用につながった情報源も同様に、「求人情報サイト（スマホ・携帯）」と「求人情報アプリ」が多くの回答を集めています。今後利用したい情報源では、「友人・知人・家族の紹介」が4番目で、多くの情報が載っている求人情報サイトやアプリとは異なる、知り合いからの情報提供にも一定のニーズがあることが分かりました。また、比較的新しい採用手法である「求人検索エンジン」や「SNS」は、1割前後の学生が利用したいと答えています。

### ● 2-5採用（内定）につながった情報源（複数回答）【対象者：アルバイト探しをした人】



\*「あてはまるものはない」には、アルバイト探しをしたが、採用にいたっていない人を含む

### ● 2-6 今後（も）利用したい情報源（複数回答）【対象者：全員】



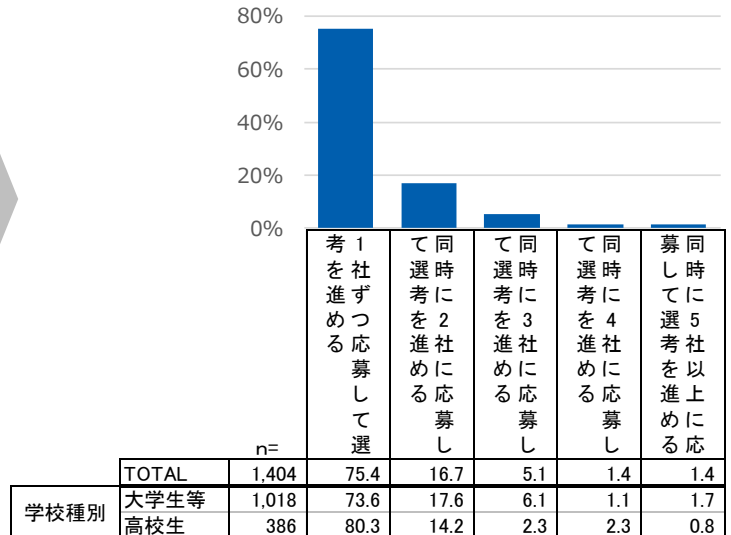
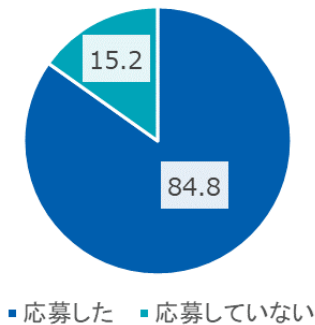
## Part3 応募方法と選考辞退

求人情報サイト・アプリが普及した結果、応募の心理的ハードルが下がった一方、応募後の辞退が増えたとも一部で聞かれます。最近1年以内のアルバイト探して、実際に求人に応募した割合は84.8%ですが、その応募方法として「1社ずつ応募して選考を進める」が75.4%で、学生の4人に3人が単願、4人に1人が併願でアルバイト先を探していることが分かりました。

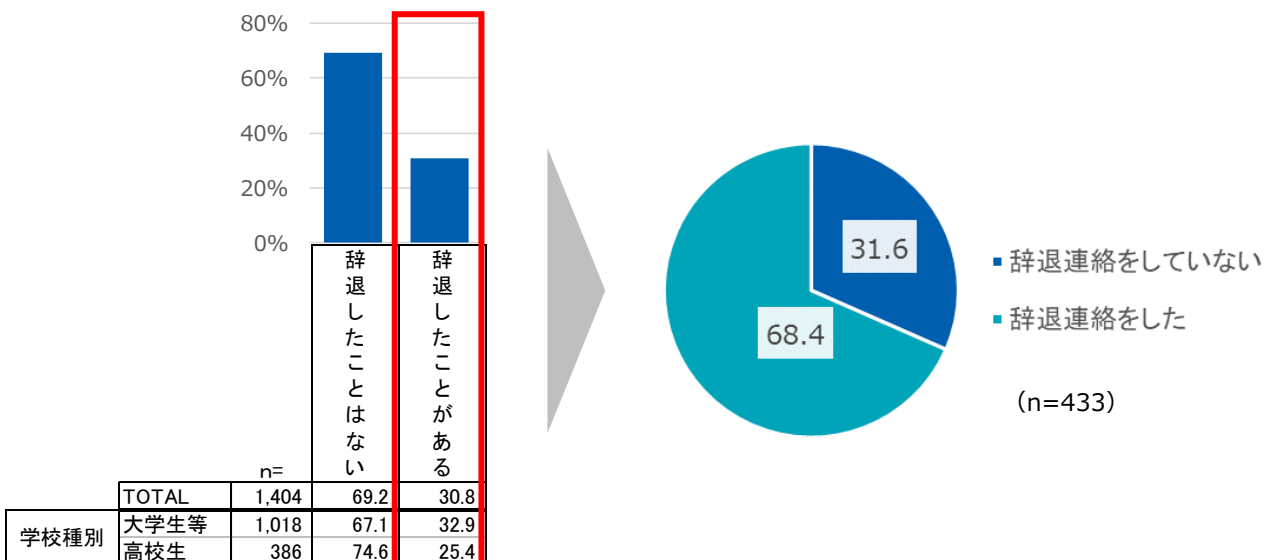
また、応募後の選考辞退の有無では、約7割が「辞退をしたことはない」と答えています。一方で、「辞退をしたことがある」約3割の学生のうち、31.6%が応募先に「辞退連絡をしていない」と答えており、応募後や面接実施後に企業からの連絡を返さなかったことや、面接当日に無断で参加しなかったことなどが想定されます。

### ● 3-1 応募の仕方 (単一回答)【対象者：最近1年以内のアルバイト探して、求人に応募した人】

《参考》最近1年以内のアルバイト探して、求人に応募した人 (単一回答)  
【対象：アルバイト探しをした人 (n=1655)】



### ● 3-2 応募後の辞退有無と、応募先への辞退連絡 (単一回答)【対象者：求人に応募した人】





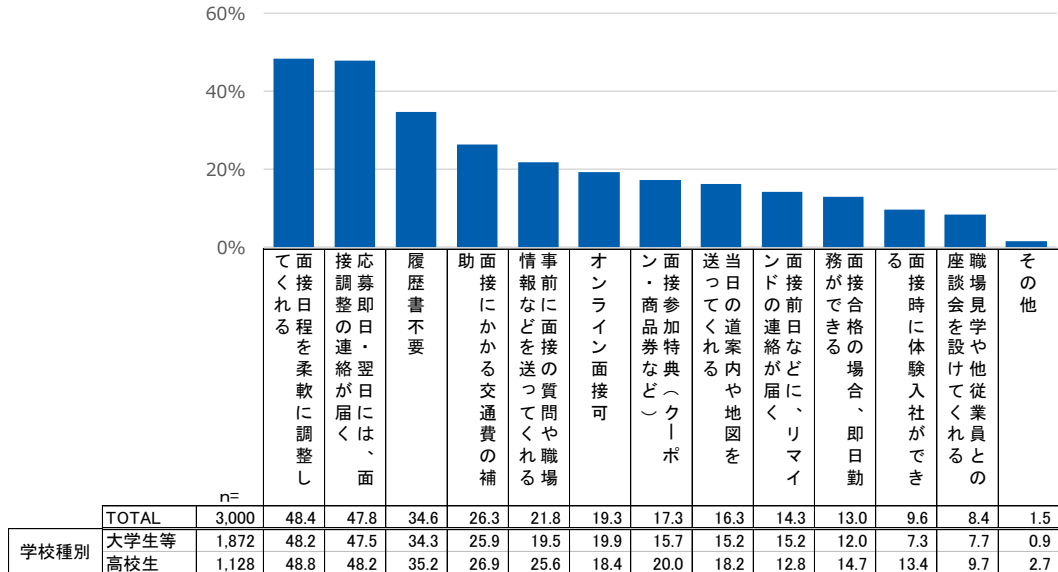


## Part3 応募方法と選考辞退

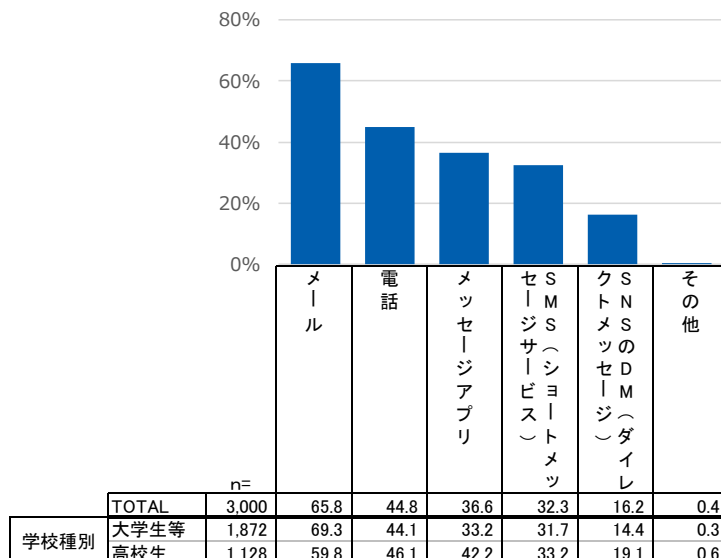
企業側がどのように対応すれば、面接への参加意欲がアップするのかを聞くと、「面接日程を柔軟に調整してくれる」「応募即日・翌日には、面接調整の連絡が届く」がそれぞれ5割弱に上り、なるべく早く面接を調整できるように柔軟・迅速に対応することが求められているようです。また、「履歴書不要」も34.6%で、学業などで多忙な学生生活のなか、面接に参加する負担を軽減することも効果的だと言えます。

また、応募先との連絡手段ですが、「メール」が65.8%で最多ですが、「電話」にも半数弱の回答が集まっています。

### ● 3-5 面接への参加意欲アップにつながる企業対応 (複数回答)【対象者：全員】



### ● 3-6 応募先との連絡方法の希望 (複数回答)【対象者：全員】

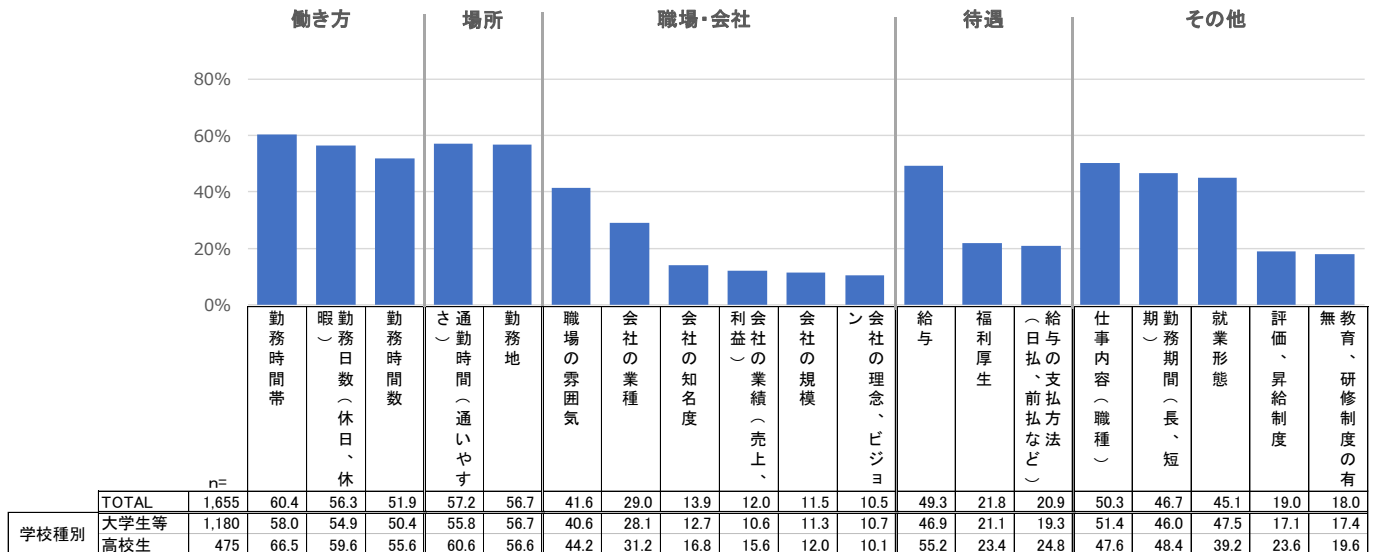


## Part4 今後アルバイトで希望すること

アルバイト探しの絶対条件では、「勤務時間帯」60.4%や「勤務日数」56.3%などの働き方や、「通勤時間」57.2%や「勤務地」56.7%といった場所を、学生が特に重視していることが分かりました。

本調査に参加した学生からのコメントでは、「シフト制である」「時間を融通してくれる」といった働き方に関するものや、自宅や通学経路からの通いやすさを重視する声も目立ちましたが、「年代が多い」「人間関係に困らない」といった職場の雰囲気を感じさせるコメントも見受けられました。

### ● 4-1 アルバイト探しの絶対条件 (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人】



\*各項目について「絶対条件だった」「他の条件が良ければ我慢した」「もともと関心なかった」のうち、「絶対条件だった」を選択した人の割合を集計

### ● 4-2 希望するアルバイトの職場 (フリーコメント)【対象者：全員】

※括弧内は学校種別・学年および、アルバイトをしている場合はその仕事内容。

#### ●働き方関連

- └ 「学業や自分の都合にあわせて働けるシフト制であること」(大学院生/塾講師、家庭教師、採点)
- └ 「柔軟にシフトを調整してくれるところ」(高校1年生)
- └ 「学校終わりの短時間(2時間程度)だけでもアルバイトができる職場」(大学1年生/宿泊施設のスタッフ)
- └ 「1日に長く働くのではなく、1週間に数回短時間で働ける環境が良い」(大学3年生/コンビニ・スーパー店員)

#### ●場所関連

- └ 「自宅から徒歩圏内にある職場」(大学4年生/コンビニ・スーパー店員)
- └ 「通学経路内で働けるところ」(大学4年生/塾講師、家庭教師、採点)

#### ●その他

- └ 「従業員同士の関係性が良く、継続できそうな場所であること」(高校2年生)
- └ 「年代の人が多くて、友達にもなれるような職場」(大学3年生/ファストフード店員)
- └ 「コツコツと個人で作業をできる仕事内容」(短大生/一般事務、スタッフ職)
- └ 「人と自分の成長につながるようなやりがいを得られる職場」(大学院生/塾講師、家庭教師、採点)
- └ 「賃金よりも、仕事内容が合うかどうかや、職場の雰囲気に馴染めるかどうかを重視する」(短大生)
- └ 「研修やマニュアルがしっかりしていて、聞いたらすぐに教えてくれるところ」(大学4年生/その他販売店員)

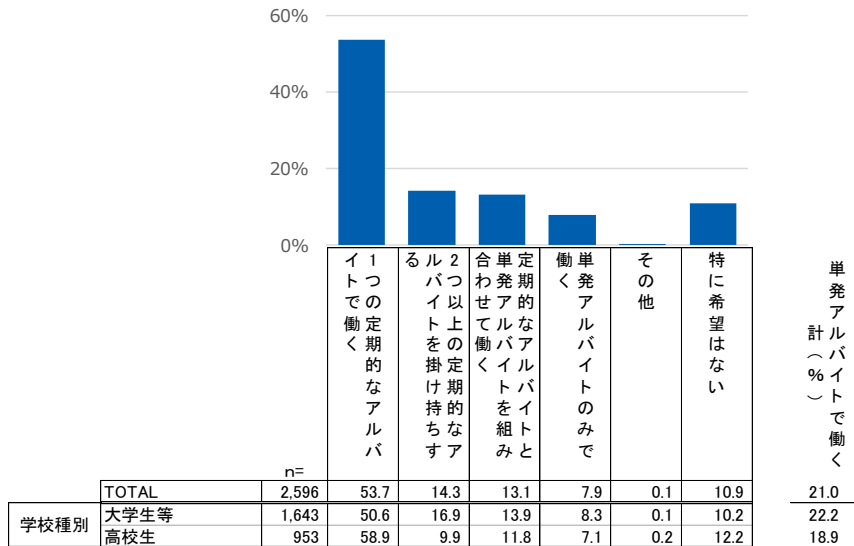
## Part4 今後アルバイトで希望すること

今後のアルバイト探しで希望する働き方では、約半数の学生が「1つの定期的なアルバイトで働く」と答えた一方で、「2つ以上の定期的なアルバイトを掛け持ちする」「定期的なアルバイトと単発アルバイトを組み合わせる」を希望する層も、大学生等を中心にそれぞれ1割強いました。1つのアルバイトだけでは、希望する時間帯や時間数を働けないという懸念があるのかもしれない。

単発アルバイトを含んで回答した学生は合計21.0%に上りましたが、単発アルバイトのイメージについては、「空いた時間を有効活用できる」62.9%と「お金が必要な時にすぐ手に入る」56.6%が特に多い結果となりました。

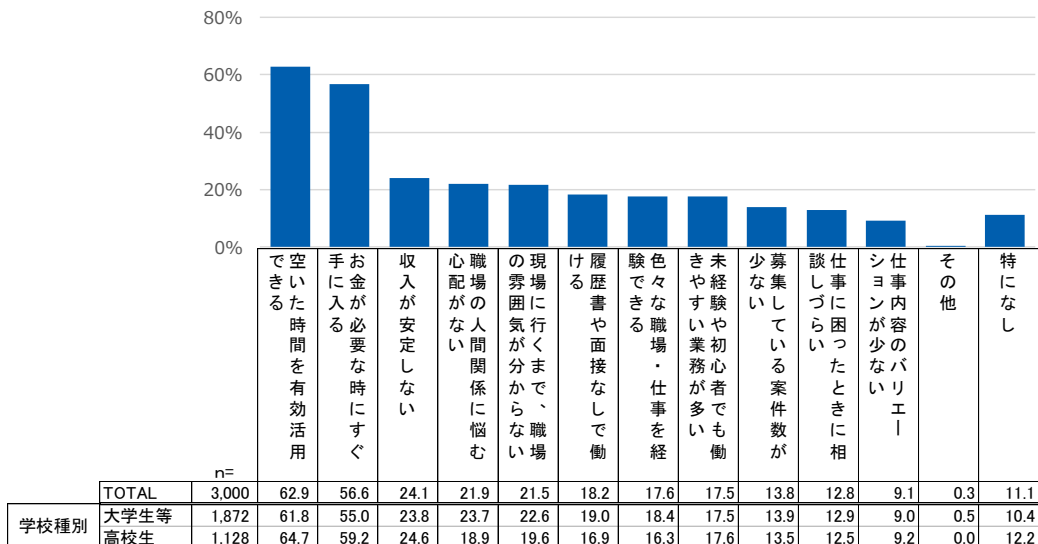
### ● 4-3 希望する働き方 (単一回答)

【対象者：今後在学中にアルバイトをする意欲について「今後働く気はない」と答えた人以外】



### ● 4-4 単発アルバイトのイメージ (複数回答) 【対象者：全員】

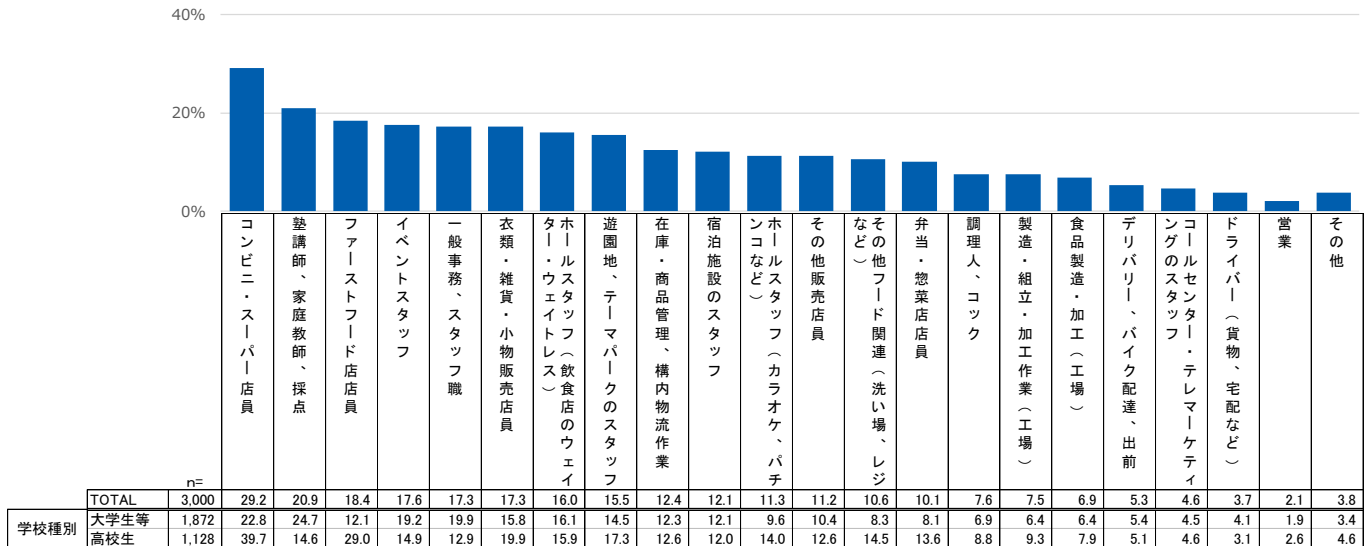
※本レポートでの「単発アルバイト」とは、その都度会社や職場が変わり、1日単位で働くアルバイトを指します。



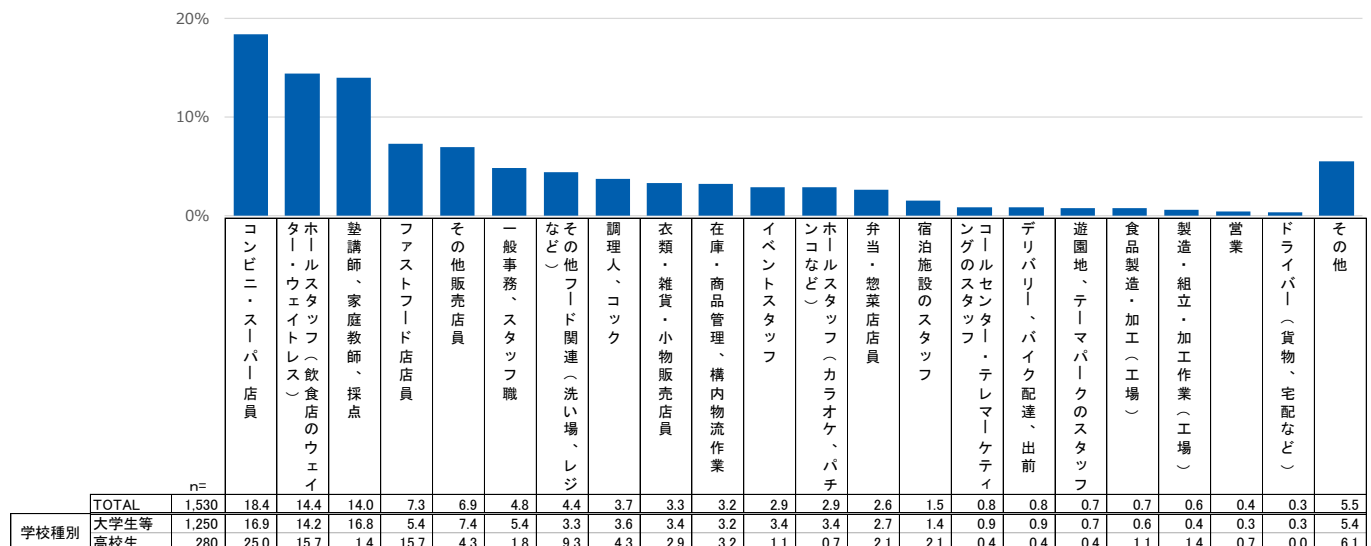
## Part4 今後アルバイトで希望すること

今後働いてみたいアルバイトの仕事内容では、「コンビニ・スーパー店員」が最も多く29.2%で、高校生では約4割に上っています。「塾講師、家庭教師、採点」が20.9%で続きますが、高校生が大学進学後などに働いてみたい、と考えている可能性がありそうです。また、現在の仕事内容と見比べると、「イベントスタッフ」や「遊園地、テーマパークのスタッフ」のギャップが比較的大きく、学生が働いてみたい意欲はあるものの、そもそも募集が少ない、もしくは募集があっても学生が採用ターゲットではない、などの理由が考えられます。

### ● 4-5 今後働いてみたいアルバイトの仕事内容 (単一回答)【対象者：全員】



### «参考» 現在のアルバイトの仕事内容 (単一回答)【対象者：アルバイトをしている人】

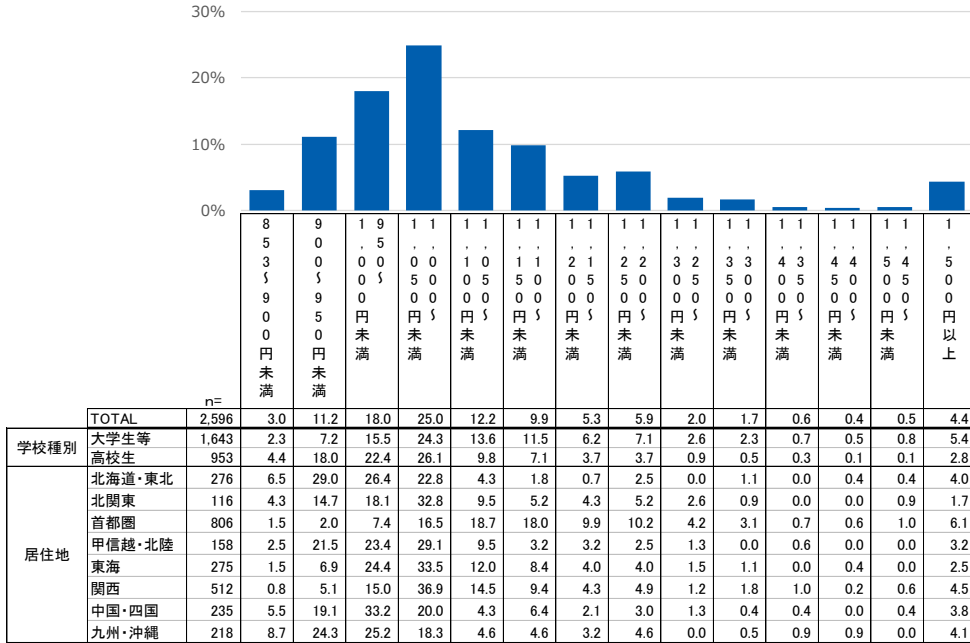


## Part4 今後アルバイトで希望すること

希望する最低限の時給では、物価や最低賃金を踏まえて、首都圏や東海、関西などが全体的に高めになっています。

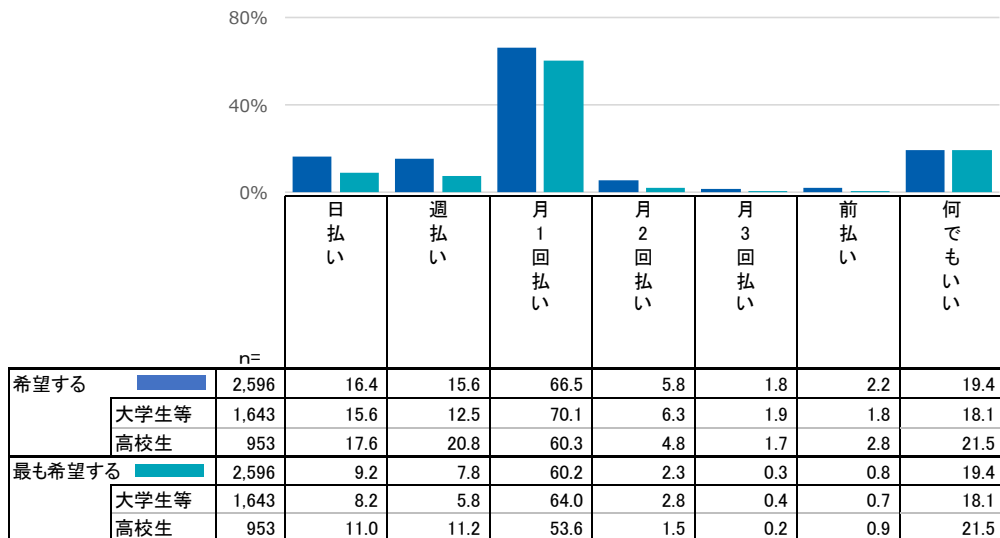
給与の受け取り方法では、「何でもいい」と答えた学生が約2割いる一方で、一般的な月1回払い以外にも、もっとも希望する方法として「日払い」に9.2%、「週払い」に7.8%の回答が集まっており、給与をなるべく早く受け取りたいというニーズがあります。なお、給料日を待たずに、希望するタイミングで給与を受け取れる「前払い」をもっとも希望する学生は0.8%に留まりました。

### ● 4-6 希望する最低限の時給 (単一回答)【対象者：「今後働く気はない」と答えた人以外】



### ● 4-7 希望する給与の受け取り方法 (「希望する」は複数回答、「最も希望する」は単一回答)

【対象者：「今後働く気はない」と答えた人以外】



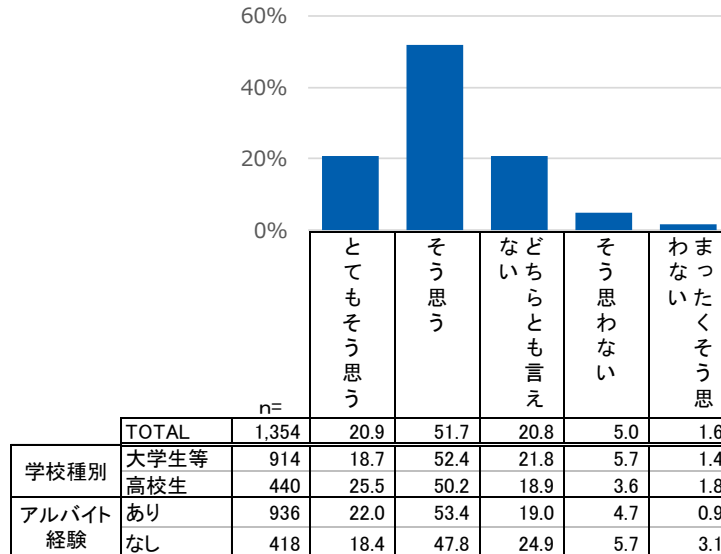
## Part5 アルバイトと卒業後の進路

卒業後の進路を考えるために、アルバイトは役に立つかという質問では、「とてもそう思う」20.9%、「そう思う」51.7%という結果でした。アルバイト経験がある学生のほうが、ない学生よりも、肯定的な傾向が見られます。

また、アルバイトで身についたことでは、「異なる年齢・立場の人と、コミュニケーションを取れる」54.0%が最も多く、「適切なマナーを守れる」が43.0%で続きます。身につけたいことと身についたことは概ね一致した結果ですが、接客系業務についている学生が多いため、「PCスキル」などの事務処理能力が身についたと感じる学生は限られているようです。

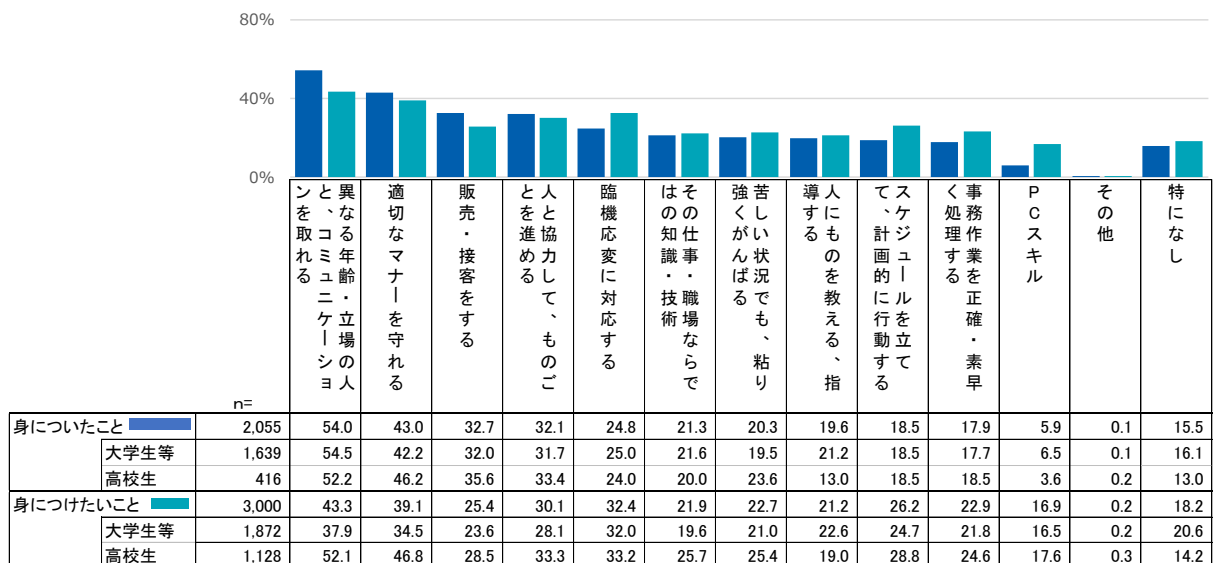
### ● 5-1 卒業後の進路を考えるために、アルバイトは役に立つと思うか (単一回答)

【対象者：「今後働く気はない」と答えた人以外】 ※本調査回答者一部に追加調査を実施した内容



### ● 5-2 アルバイトで身についたこと、身につけたいこと (複数回答)

【対象者：「身についたこと」はアルバイトをしたことがある人、「身につけたいこと」は全員】

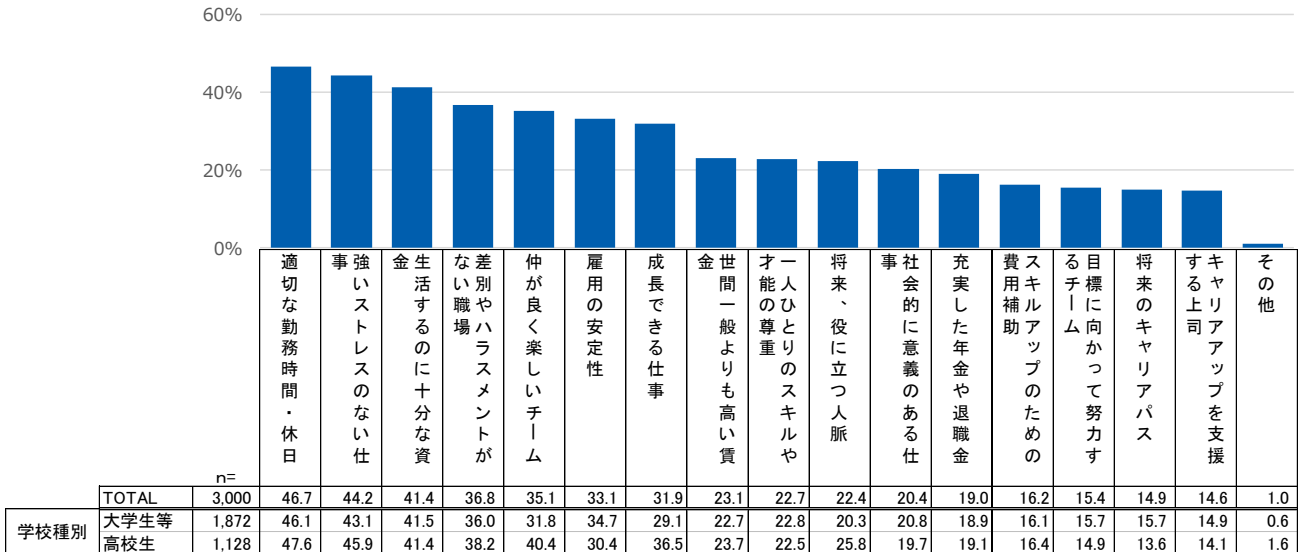


## Part5 アルバイトと卒業後の進路

アルバイトに限らず、学生が働くうえで重視することでは、高収入やスキル・キャリアアップよりも、「適切な勤務時間・休日」や「強いストレスのない仕事」といった肉体的・心理的な安全をまずは優先している、ということが窺えます。

また、現在のアルバイト先から、卒業後の正社員就職の誘いがあった場合には、「誘いを断る」35.9%が最多ですが、学生がアルバイトをしている業種・職種と、卒業後に働きたいものとのギャップなどが理由として考えられます。一方、「誘いを承諾して入社する」が8.4%のほか、就職先として検討したいという学生も3割強存在しています。

### ● 5-3 働くうえで重視すること (複数回答)【対象者：全員】



### ● 5-4 現在のアルバイト先から、正社員就職の誘いを受けた場合の回答 (単一回答)

【対象者：アルバイトをしている人】

